

両面受光型太陽電池モジュールの実証試験

ー 積雪寒冷地における太陽光発電 ー

【講演主旨】

寒冷地域や重塩害地域においては、冬季の積雪による影響、塩害の影響等により、有効に太陽光発電をできない環境下にあります。そこで再生可能エネルギーの一つである太陽光発電について、技術の概要・最近の動向を紹介しながら、寒冷地域や重塩害地域に適した太陽光発電について解説します。

本講演では、積雪寒冷地や重塩害地域など過酷な環境下において発電が期待されるダブルガラス構造両面受光型太陽電池について基本性能と長期信頼性（高耐候性、発電性能）を向上させる目的で、平成 24 年から開始した共同研究から、現在の実証試験に至るまでの実施内容を紹介しながら、今後の再生可能エネルギーについて考察していきます。

【日時】 平成 27 年 8 月 21 日(金) 10:00~11:00

【場所】 岩手県立産業技術短期大学校
本館棟 3F 総合実験室 (D 会場)

【講師】 赤堀 拓也氏
(岩手県工業技術センター電子情報技術部 主任専門研究員)

【講師プロフィール】

- 昭和 45 年 神奈川県生まれ
- 平成 7 年
岩手大学大学院工学研究科機械工学第二専攻修了
大蔵省印刷局（現在 国立印刷局）入局
- 平成 10 年
東北通信工業株式会社 入社
- 平成 17 年
宮城県仙台市にて個人事業主として活動
- 平成 18 年
岩手県立産業技術短期大学校水沢校生産技術科 技術指導員
- 平成 23 年
岩手県立産業技術短期大学校メカトロニクス技術科 主任技術指導員
- 平成 26 年
岩手県工業技術センター電子情報技術部 主任専門研究員 現在に至る

両面受光型太陽電池モジュール

